

人口と世帯

人口 403,935人
男 199,989人
女 203,946人
(前月より393人増)
世帯 165,231世帯
(前月より251世帯増)
(16年7月1日現在)

第1406号

発行・町田市 編集・企画部広報広聴課
〒194-8520 東京都町田市の中町1-20-23
市役所の代表電話042・722・3111
発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)
ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp>



首長懇談会で挨拶する寺田市長

安全・安心のまちづくりをめざして 町田駅周辺の環境浄化を一体で

町田市・相模原市首長懇談会開催

企画調整課 ☎ 724・2103

7月15日、相模原市消防指令センターを会場に、寺田和雄市長と相模原市の小川勇夫市長による首長懇談会を開催しました。

町田市と相模原市は、境川を挟んで接しており、文化、経済、交通などで密接なつながりがあり、一体となった生活圏が形成されています。このため、共通する行政課題への対応や地域を越えた市民サービスの充実が一層求められています。

また、両市を合わせた人口は約102万人にのぼり、国が策定した第5次首都圏基本計画において、「町田・相模原業務核都市」として位置づけられるなど、国や都県の計画においても両市は広域的な連携・交流の拠点となることを求められています。

両市の首長懇談会は、平成5年(1993年)から開催しているもので、今回で12回目となりました。これまでの懇談会では、図書館、宿泊施設、高齢者福祉センター等の相互利用、災害時における相互応援協定の締結、大学と地域の連携方策に関する共同研究などについて合意し、成果を上げてきました。

今回の懇談会では、新たな連携事項として、犯罪のない安全・安心のまちづくりに向けて、事務レベルの情報交換を積極的に行うことと合意しました。特に、両市に跨る町田駅周辺の環境浄化対策については、一体的に取り組んでいくことになりました。また、米軍の航空機騒音問題や小田急線の踏切解消などの道路交通問題に関する取組について、一層の連携を図る事を確認しました。

その他、今後とも県境を越えて豊かな市民生活を実現するため、公共交通問題や少子化対策など共通する課題について情報交換を行いました。

市長随筆

その14

町田市長 寺田 和雄

私は昨年四月と六月の本シリーズで、戦後しばらくの間、町田で小学校教員をつとめながら「街のサンドイッチマン」や「ガード下の靴みがき」など数々の歌謡曲をヒットさせた作詞家の宮川哲夫について紹介させていた。覚えていらっしゃる方も多いと思う。

またまた

宮川哲夫について

ある。

えん子たちをはじめ「宮川先生ならよく知っているよ」という人々も現れてきて、一気に波紋が広がった。

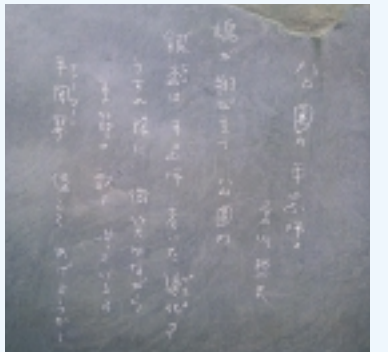
もともと、かつて一時期、町田市教育長をつとめていた私は「町田の先生で素晴らしい歌をつくった人がいた」程度の情報は耳に入っていたが、時移り、人もかわってこれ以上詳しいことはわからなかったところ、ある日、NHKの

された「旧蔵資料展」(九月七日～二十六日・中央図書館)「同講演会」(九月十一日・中央図書館)が企画されている。コンサートには、宮川の「美しい十代」を唄った三田明さんや、「好きだった」のアロハスターズ(元マヒナスターズ)が来演されることになった。

宮川哲夫は、伊豆大島、波浮の

このように、宮川哲夫という人の存在は、はからずも大島町、調布市、町田市の三自治体の交流をいっそう進める「きっかけ」になって嬉しかりである。

いま、まちづくり運動のなかで「昭和三十年代」が改めて関心を集めている。戦後の混乱から立ち直り、



大島 波浮にある歌碑「公園の手品師」

「ラジオ深夜便」で宮川の歌が流れ、もとは学校の先生だったと紹介されたのを聴き、感ずるところあつて調べた結果、はからずも今まで述べてきたような結果になったのである。それだけに私にとつては宮川哲夫なる人に思いは深いのである。

いま、市民ホールや図書館のスタッフを中心に、没後三十周年を記念して「宮川哲夫メモリアルコンサート」(九月十五日、市民ホール)をはじめ、宮川家から寄贈

港の出身である。島の生んだ偉大な作詞家として、大島町では波浮の港に宮川の歌碑をつくつたりしており、都合がつけば藤井大島町長さんモコンサートに駆けつけるという。町田市は、リス園で以前から大島町のご協力をいただき、毎年町田のさくらまつりには大島物産の出店など、交流が進んでいるが、今回の縁でいっそう友好が深まっている。また、宮川夫人は現在調布にお住まいになつておられ、これまた調布市とも友好の輪を広げる機会になりそうで、

当日は宮川夫人をはじめ、長友調布市長と調布市のみならずも参加していただけて幸いです。

宮川哲夫旧蔵資料の一切は、来年度オープン予定の(仮称)町田市立文学館に展示、保存される。この九月に行われる没後三十周年記念事業に多くの市民のご参加をお願いするとともに、大島観光(宿泊助成)がありますので七月十一日号の市広報を見て下さい)で、宮川哲夫生誕の地を訪れながら、島のみなさんと交流をすすめて下さい。

夏の花 野津田の ひまわり畑

薬師池公園の北西、町田ぼたん園・ふるさと農具館近くにある野津田町の畑では、ひまわりの花がそろそろ見頃となります。

これは景観を楽しんでいたことが、市が七国山ふれあいの里組合に栽培を委託しているものです。

このほかに初秋に白く可憐な花をつけるソバや、春の到来を



告げる菜の花なども栽培委託しています。

交通 小田急線町田駅北口P Oピル先21番乗り場から、本町田経由野津田車庫行き、または、鶴川駅行きバスで「薬師ヶ丘」下車、徒歩10分

車でおいでの方は、薬師池公園駐車場に駐車して下さい。

問ふるさと農具館 ☎ 736・8380

犠牲者のめい福と恒久平和を祈って 黙とうをささげましょう

今年もまた8月がめぐってきました。1945年(昭和20年)8月6日、広島に人類史上始めて原子爆弾が投下され、続いて、8月9日には長崎にも投下されました。そして、8月15日、太平洋戦争は終わりました。

終戦から59年という長い歳月が過ぎ去りました。しかし、戦争の傷跡はいまだに深く残っています。私たちは、犠牲者のめい福を祈ることを忘れず、戦争のない、平和な世界の実現のために永久に努力していかなければなりません。

そこで、町田市は恒久平和の願いを込めて、1983年(昭和58年)2月1日に非核平和宣言を行いました。また、1988年(昭和63年)2月1日には市役所駐車場側入口前に宣言文と広島市から寄贈を受けた旧広島庁舎の被曝石を組み込んだ宣言碑を設置しました。

市では、広島原爆の日である8月6日午前8時15分から、長崎原爆の日である8月9日午前11時2分から、終戦の日である8月15日正午から、それぞれ1分間、防災無線でチャイムを放送します。犠牲者のめい福と世界平和を願って、黙とうをささげましょう。

- 6日 広島原爆の日(午前8時15分から)
- 9日 長崎原爆の日(午前11時2分から)
- 15日 終戦の日(正午から)

企画調整課 ☎ 724・2103